

科目名	人文科学Ⅲ Human ScienceⅢ			担当教員	與田 純		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	13120044	単位区分	履修単位
学習目標	目標区分 (A-1)：倫理観－倫理観を育て社会貢献の意義を理解・表現できる。 (A-2)：広い視野－国際的観点から多面的な意見を述べられる。 (A-3)：技術者倫理－技術の発展の功罪、技術者の責任を述べられる。 前期は古代ローマの歴史、後期はフランス革命の歴史について学習する。一方は古代史、もう一方は近代史と、両者の時代はかけ離れているが、共にその後の世界の歴史に多大な影響を及ぼした事項である。両テーマとも 22 年度の歴史Ⅰでは取り上げられなかった内容であり、世界史の教養を更に深めてもらいたい。						
進め方	基本的に講義形式で進めるが、「ノートを取って、暗記する」だけの受動的な学習方法では試験に対応することはできない。学生諸君には、授業への積極的な参加を要求する。また、史料や絵画など多様な文献を読み解くことを通じて思考力を養い、音楽・映像教材などを用いて授業の理解を深めもらう。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ローマ帝国の興亡① (15) (1) 都市国家ローマの誕生 (2) 身分闘争 (3) ポエニ戦争 (4) 内乱の一世紀			古代ローマの歴史の概要と、王政から共和政を経て、共和政が機能麻痺するという政治体制の変化の原因・特徴を理解できている。			
	[前期中間試験] (2)						
	2. ローマ帝国の興亡② (15) (1) 帝政の成立 (2) ローマ帝国の繁栄と文化 (3) 帝政の変質 (4) 帝国の分裂とその後			古代ローマ帝国の歴史の概要と、共和政から前期帝政を経て後期帝政への政治体制の変化の原因・特徴を理解する。ローマ帝国がその後の世界に及ぼした影響について理解できている。			
	前期末試験						
	3. フランス革命 (15) (1) 旧体制とその危機 (2) 革命の勃発 (3) 第一共和政の成立 (4) 恐怖政治			フランス旧体制の特徴と問題点を説明できる。フランス革命の概要と、王政から共和政への政治体制の変化の原因・特徴を理解する。			
	[後期中間試験] (2)						
	4. ナポレオン時代 (15) (1) 第一帝政の成立 (2) ナポレオン帝国の興亡 (3) ウィーン体制の成立 (4) ウィーン体制の崩壊			ナポレオン時代の概要と、共和政を経て帝政への政治体制の変化の原因・特徴を理解する。フランス革命とナポレオン時代がその後の世界に及ぼした影響について理解できている。			
	後期末試験						
評価方法	・評価の内訳は、発表点と小テスト等を 10%程度、定期試験結果を 90%程度とする。 ・学習項目ごとの全体評価への重みは、1.～4. のそれぞれについて 25%, 25%, 25%, 25%とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	歴史Ⅰ（1年） → 歴史Ⅱ（2年） → [人文科学Ⅲ]（4年）						
教 材	教科書：北村正義編『新編 世界の歴史』（学術図書出版）資料集：『世界史タペストリー』（帝国書院）ワークノート：『世界史トレーニングノート』（山川出版）。その他、参考図書を随時紹介する。						
備 考	単位追認試験は次年度の9月（前期範囲）と1月（後期範囲）に実施する。						